

1. 略歴

1991 年 3 月	東京大学文学部東洋史学専修課程卒業
1993 年 3 月	東京大学大学院人文科学研究科（東洋史学）修士課程修了
1995 年 3 月	東京大学大学院人文科学研究科（東洋史学）博士課程退学
1995 年 4 月	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手
1999 年 4 月	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所情報資源利用研究センター助手 〔2000 年 5 月に、東京大学より博士（文学）の学位を取得〕
2001 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2018 年 9 月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国近代史

b 研究課題

主な研究課題は、近代中国における政治体制の模索、都市政治、経済建設、ナショナリズム、日中関係史。最近では、近代中国における歴史学の形成と日本の「東洋史学」の交流の考察にも関心がある。

c 概要と自己評価

中国近代における政治体制、中国沿海部と内陸部の経済的関係、知識人の国際関係認識など、複数の研究課題を並行して進めている。それらの成果の一部は論文にまとめて発表することができたが、それぞれのテーマに即した著作としてまとめていく作業も進行中である。

d 主要業績

(1) 著書

吉澤誠一郎、『愛国とボイコット——近代中国の地域的文脈と対日関係』、名古屋大学出版会、2021.11

(2) 編著

吉澤誠一郎監修、『論点・東洋史学——アジア・アフリカへの問い 158』、ミネルヴァ書房、2022.1

(3) 論文

吉澤誠一郎、「白鳥庫吉と東洋史学の始源」、吉見俊哉・森本祥子編『東大という思想——群像としての近代知』、東京大学出版会、2020.8

吉澤誠一郎、「先行研究と向き合う」、飯島渉編『大国化する中国の歴史と向き合う』、研文出版、2020.9

吉澤誠一郎、「日本語ガイドブックに見る華北・華中・華南」、久保亨、瀧下彩子編『戦前日本の華中・華南調査』、東洋文庫、2021.3

3. 主な社会活動

(1) 学会等の委員

国内、日本学術会議、連携会員、2014.1 月～現在

国内、東洋文庫、兼任研究員、2009.4～現在

国内、中国社会文化学会、理事、2001.7～現在

国内、東方学会、学術委員、2013.6～現在

国内、東洋史研究会、評議員、2008.11～現在

国内、史学研究会、評議員、2013.6～現在

国内、史学会、評議員、2020.6～現在

国内、歴史学研究会、委員、2021.6～現在